

宮沢賢治の詩にもある
 「雨にも負けず 風にも負けず」
 というのは
 こんな顔の人をいうのだろう
 この顔は
 かなしみに耐えた顔である
 くるしみに耐えた顔である
 人の世の様々な批判に
 じつと堪えた顔である
 そして
 ひとことも弁解をしない顔で
 ある
 なんにも言いわけをしない顔
 である
 そしてまた
 どんなにくるしくても
 どんなにつらくても
 決して弱音を吐かない顔であ
 る
 絶対にぐちを言わない顔であ

る
 そのかわり
 やらねばならぬことは
 ただ黙ってやってゆく、とい
 う
 固い意志の顔である
 一番大事なものに
 一番大事ないのちをかけてゆ
 く
 そういうキゼンとした顔であ
 る
 この眼の深さを見るがいい
 深い眼の底にある
 更に深い憂いをみるがいい
 弁解やいいわけばかりしてい
 る人間には、
 この深い憂いはできない
 息子よ
 こんな顔で生きて欲しい
 娘よ
 こんな顔の若者とめぐり逢っ
 て欲しい

相田みつをさんの詩です。ある30代の俳優さんは小学生の時からこの詩を宝物として持っているそうです。ひとの顔はその人が作り上げていくのです。あなたの顔はあなたの生きる姿が表れています。一度きりの人生、大切に生きてステキな自分を作り上げていこうね。
 長沼町 天野 敦子